

下田まち遺産案内

1 しんしもだばし にんぎょぞう 新下田橋 人魚像 P10 参照

昭和 32 年(1957)に竣工した新下田橋。船の竜骨を表現した欄干は優美な曲線をみせ、橋の四隅に佇む人魚像は、西伊豆出身の彫刻家堤達男氏（故人）の手によるものです。表情や手の動きで“春夏秋冬”を表しています。平成 25 年には堤氏の弟子の高橋忠氏の手によって修復され、美しく蘇りました。

上写真 冬を表現した人魚像  
下写真 修復された人魚像近景



3 しもだはちまんじんじゃ におうぞう・こんごうきしぞう 下田八幡神社 仁王像・金剛力士像 P10 参照

下田八幡神社の楼門には、一風変わった仁王像と金剛力士の石像があります。彫りが深く、愛着と迫力が混じった姿は、大分県国東半島の石仏に類似するとされ、今でいう貨物船に乗って下田にやってきたとも言われています。制作年代は不明ですが、ペリー艦隊日本遠征記の挿絵に描かれていることから幕末期には神社に安置されていたようです。伊豆には珍しい姿のミステリアスな石像です。



左写真 参道から楼門を見て左側に立つ仁王像  
右写真 右側に立つ仁王像

2 どうでんじ あみだによらいざぞう 稲田寺 阿弥陀如来坐像 P10 参照

稲田寺の山門右手の阿弥陀堂には、伊豆の古い仏像の中でも最大規模の阿弥陀如来坐像が安置されています。像高 208cm であり、平安時代末期の作として下田市の文化財に指定されています。お堂に入り、阿弥陀様のお顔を見上げると、私達を優しく見守っていただいているように感じ、心が温かくなることでしょう。

上写真 堂内中央に鎮座した仏像  
下写真 阿弥陀如来坐像近景



4 しもだじょうしからぼり 下田城址空堀 P10 参照

自然豊かな下田公園は、天正 16 年(1588)、豊臣秀吉の小田原攻めに備えて築城された後北条方の水軍拠点でした。当時は尾根の要所に曲輪や物見台などが設けられ、約 700m の空堀が巡る伊豆半島最大規模の山城でした。空堀には、侵入した敵兵の行動を妨げる障害物(畝)があり、この畝は北条氏が築いた山城の特徴といわれています。戦国時代の遺物を見ることができる下田公園。散策時にはぜひ訪れてほしい下田まち遺産です。

上写真 市内ハーバーミュージアムにある下田城址模型  
下写真 現在の空堀



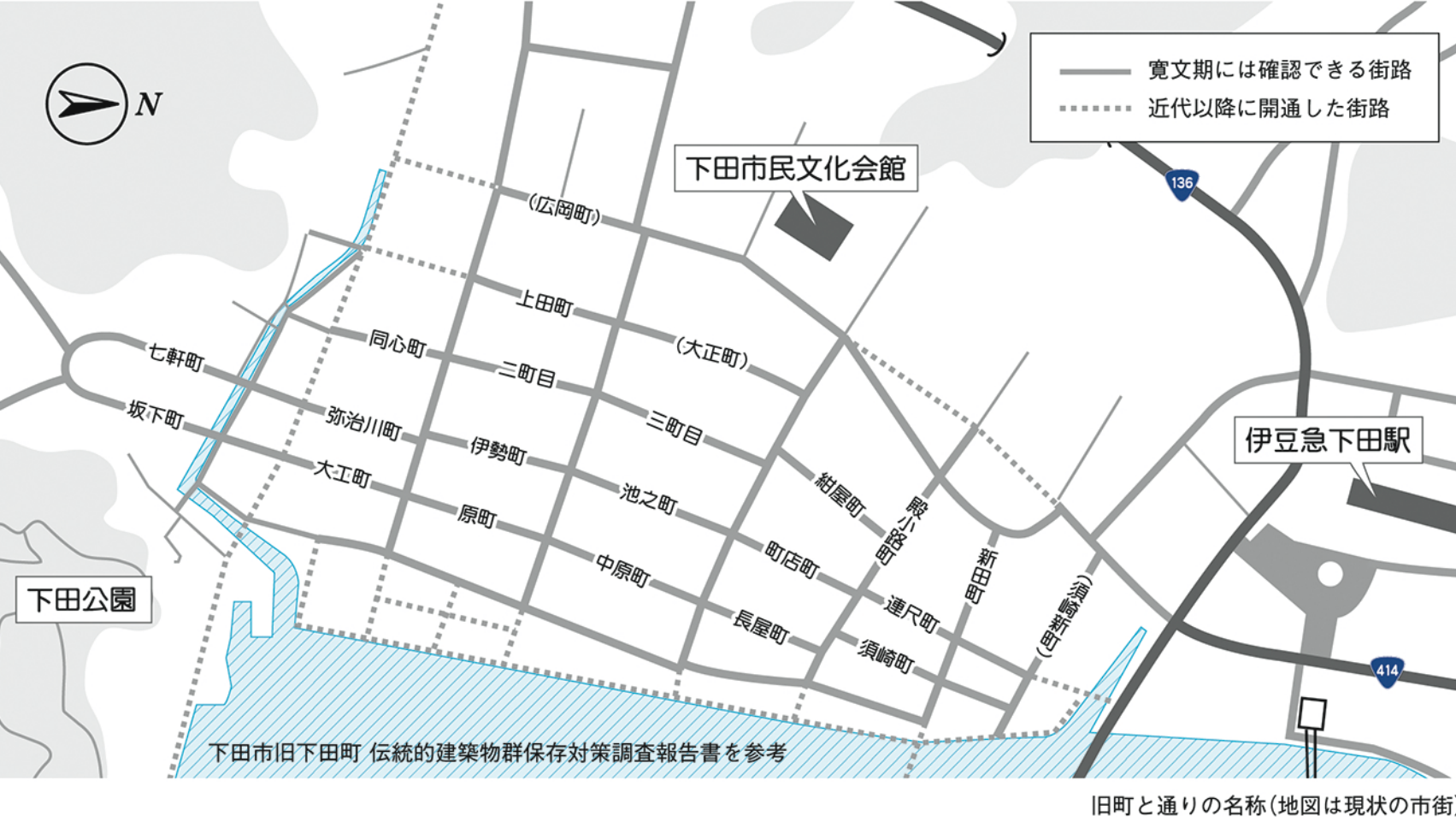
こちらの下田まち遺産については、下田市役所ホームページ内にて紹介しております。 [下田まち遺産](#) [検索](#)

下田まち遺産案内

5 しもだしのきゅうちょうめい 下田市の旧町名 P10 参照

昭和 37 年 5 月 10 日に公布された法律によって、旧町名が廃止され、現在の〇丁目△番 × 号となりましたが、江戸時代から引き継がれた伝統的な町の名を後世に伝えたいという提案を受け、旧町名を下田まち遺産に認定しました。認定にあたっては、江戸時代の天保年間(1830 年頃)の古絵図などを参考に、旧漢字は当用漢字に改め下記により認定しました。

| 旧町名  | 由来(参考)                                                            |
|------|-------------------------------------------------------------------|
| 須崎町  | 稲生沢川と数根川の合流点に出現した三角州(須)の先(崎)にできたため。                               |
| 新田町  | 新しい土地、新しい場所にできた町の意味。数根川に沿って田んぼが開墾されたという説もある。                      |
| 殿小路町 | 海善寺に戸田忠次の居館ができ、その門前通りを殿小路と呼んだため。身分の高い武士が住んでいたといわれる。               |
| 連尺町  | 行商人が集まった町のため。(連尺＝連雀＝行商人の意味)                                       |
| 紺屋町  | 愛染職人(紺屋)が集まった町のため。                                                |
| 町店町  | 商店が集まった町のため。雨戸を棚に見立て、その上で商品を売ったといわれる。                             |
| 長屋町  | 戸田忠次の家来たちが多く住んだ長屋のあった町。                                           |
| 池之町  | 池のあった町、池を管理する人の住む町だったため。                                          |
| 原町   | 葦(あし)が生えていた湿地帯で、原っぱだったため。                                         |
| 中原町  | 葦(あし)が生えていた湿地帯で、原っぱの中にあったため。                                      |
| 上田町  | 上手にある田んぼの町。かつて田町と呼ばれた坂下・七軒町の上手であったという説もある。                        |
| 同心町  | 下田奉行所の役人(同心)たちが住んだため。一町目ともいったが、町名というよりは通りの名前という意味合いが強いそう。弥治川町の一部。 |
| 二町目  | 同心町(一町目)から北側を二町目、その北側を三町目といった。                                    |
| 三町目  | ※二町目を参照。                                                          |
| 伊勢町  | 元は嶋之町といわれ、州が残りの島ようになっていた町。商人の町であったため、伊勢商人にあやかって名付けられた。            |
| 弥治川町 | 平滑川は、昔は谷地川(やちがわ)といい、谷地川沿いの町なので弥治川町となった。                           |
| 大工町  | 家大工や船大工が集まった町のため。                                                 |
| 七軒町  | 元禄前後の地震と大津波後に家が七軒残ったため。また、埋立てが終わり、新しく七軒の家が建った町ともいわれる。             |
| 坂下町  | 大浦の御番所へ向かう切通しを作ったときに埋立て、大浦坂と城山を背に負った坂の下の町。                        |



ご不明な点、ご質問等ありましたらご連絡下さい。問い合わせ先：下田市建設課 TEL.0558-22-2219